

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520004

研究課題名(和文) 和辻哲郎による日本倫理思想史および日本文化史研究の総合的再検討

研究課題名(英文) Overall research on Watsuji Tetsuro's History of Japanese Ethical Thought and Culture

研究代表者

木村 純二 (Kimura, Junji)

弘前大学・人文学部・教授

研究者番号：00345240

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：日本倫理思想史研究は、仏教・儒教・神道・近代哲学等を含む多くの分野から成っている。本研究グループは、日本倫理思想史を総合的に研究するため、互いに異なる分野を専門とする若手研究者の協同的研究体制を採っている。本研究課題では、日本倫理思想史研究の創始者である和辻哲郎を対象とし、初期の日本文化史研究から、後期の日本倫理思想史研究に至るまで、和辻の日本研究を総合的に捉え返すことを目指してきた。研究代表者・連携研究者・研究協力者全体を合わせて、3年の本研究期間内に16本の論文が刊行されている。また、本研究の最も主要な成果として、和辻に関する論文集を刊行することになっている。

研究成果の概要(英文)：The study of Japanese ethical thought consists of multiple fields, including Buddhism, Confucianism, Shintoism, modern philosophy and so on. So we are cooperating with each other for years to carry out overall research into Japanese ethical thought. In this research, we deal with Tetsuro Watsuji (1889-1960) who initiated the study of Japanese ethical thought. Sixteen articles were published in this research period. And Collected Articles on Watsuji will be published as the main result of this research.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：日本倫理学 日本倫理思想史 和辻哲郎 日本文化史

1. 研究開始当初の背景

わが国の倫理学研究において不可欠な一分野である日本倫理思想史研究を創始したのは、倫理学者の和辻哲郎であり、その成果は、乗り越えるべき難点をも含めて、日本思想の総合的通史研究として、一つの範となっている。しかし、これまでの和辻研究は、主著『倫理学』を中心とした倫理学体系の方に主要な力点が置かれており、和辻の日本倫理思想史および日本文化史に関する研究は立ち遅れていた。さほど多くはない和辻の日本倫理思想史研究を扱った論考は、いずれも和辻の倫理学体系や国民道徳論との関連において日本倫理思想史を論じたものであり、和辻の思想史叙述そのものを詳細に検討したものではない。また、単行本『日本倫理思想史』のもととなった初出論文「尊皇思想とその伝統」「人倫的国家の理想とその伝統」「献身の道徳とその伝統」などは、未だに全集に収録されておらず(「尊皇思想」は単行本のみ14巻に収録)、単行本化による書き替えについても、具体的な検証はほとんどなされていない。

本研究は、そうした日本倫理思想史研究の現状を踏まえ、和辻哲郎の日本倫理思想史研究および日本文化史研究にあらためて着目し、その課題や現代的意義を明らかにするとともに、更にはそれを土台として、倫理学の一分野としての日本倫理思想史研究の方法論についても根本的な再検討を加えることを目指すものである。

2. 研究の目的

申請書に記した本研究の目的は、以下の4点であった。

1. 日本倫理思想史分野における和辻の主著『日本倫理思想史』について、使用したテキストや参考文献、およびそれらへの和辻自身による書き込み、また初出論文からの書き替え等を精査し、更には執筆当時の時代状況や和辻以後の倫理思想史研究の進展をも踏まえつつ、和辻の日本倫理思想史研究の問題点および現代的意義について考察する。
2. そうした和辻の日本倫理思想史研究と、初期の『古寺巡礼』『日本古代文化』『日本精神史研究』および後期から晩年にかけての『鎖国』『歌舞伎と操り浄瑠璃』『桂離宮』といった日本文化史研究とを、改訂状況も踏まえつつ、特に時系列に比較検討し、相互の差異や影響関係などについて思想形成史的に考察する。
3. 初出論文からの書き替えや単行本の改訂、さらには蔵書への書き込みなど、著述の最終形態を収録した現行の全集版には載せられていない資料を整理し、更なる和辻研究の進展のために、より広く共有できるものとして公刊する。
4. 和辻の日本倫理思想史研究の再検討を踏

まえ、日本倫理思想史研究の方法論的課題について整理し、今後の研究のあり方について、論文等を通じて提言を試みる。

3. 研究の方法

和辻哲郎の日本倫理思想史および日本文化史研究は、時代的には古代から近代に至るまで、領域的には神話・物語などの文芸から仏教・儒教・国学等の諸思想に至るまで、広範な資料を用いて、縦横に論じられている。そのため、本研究では、日本倫理思想史研究者として問題意識を共有しつつ狭義の専門領域を異にする若手研究者が、協同して研究を遂行する体制を取っている。こうした研究体制を取ることで、研究としての一貫性を保ちつつ、和辻の論述の各時代・領域について詳細に検討・考察することが可能となると考えるものである。

また、研究に用いるのは基本的に文献資料であるが、全集未収録の初版本や初出論文、蔵書への書き込み、和辻が参照した同時代の資料など、従来の研究において十分に活用されてこなかった諸資料を取り上げ、新たな考察を試みる。

4. 研究成果

上記「研究目的」の「1」に相当する主要な成果として、研究代表者木村の論文「恋の起源 『古事記』イザナミ神話の意味するもの」および連携研究者藤村の論文「古代日本における神と自然」を挙げることができる(下記「主な発表論文」の「雑誌論文」1番および2番)これらの論文は、和辻以後の研究動向も踏まえつつ、和辻の神話研究を再検討したものである。

上記「研究目的」の「2」に相当する主要な成果として、木村の論文「和辻哲郎における「恋愛」概念の葛藤について」(論文14番)を挙げることができる。これは、特に和辻の「恋愛」概念に焦点を当て、初期の『日本古代文化』から後期の『日本倫理思想史』に至るまで、その思想的変遷をたどり、その意義を考察したものである。

上記「研究目的」の「3」に相当する主要な成果として、木村が校注・解説を担当した和辻哲郎『日本倫理思想史』の岩波文庫版を挙げることができる(下記「主な発表論文等」の「図書」の項目参照)。同書の「註」では、和辻の用いたテキスト・参考文献等を可能な限り調べ上げて記し、また、「初出論文対応一覧」も掲載するなど、今後の和辻研究に大きく寄与するものとなっている。

上記「研究目的」の「4」に相当する主要な成果として、木村による上記の和辻『日本倫理思想史』の「解説」、木村の学会発表「和辻哲郎の日本意識 国民道徳論との関連から」、および連携研究者吉田の論文「倫理学・日本倫理思想史の観点からみた「日本意識」

(論文 16 番)を挙げることができる。これらはいずれも、和辻の日本倫理思想史研究を方法的に再検討し、今後の研究のあり方を提言するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

1. 藤村安芸子、「古代日本における神と自然」、『駿河台大学論叢』第 47 号、駿河台大学教養文化研究所、1~22 頁、2013 年、査読無
2. 木村純二、「恋の起源 『古事記』イザナミ神話の意味するもの」、『人文社会論叢人文科学篇』第 30 号、弘前大学人文学部、1~23 頁、2013 年、査読無
3. 岡田大助、「『源氏物語』における六条御息所の煩惱と苦しみについて」、『工学院大学研究論叢』巻 50-1、33~46 頁、2012 年、査読無
4. 板東洋介、「『源氏物語』享受の論理と倫理」、『季刊日本思想史』第 80 号、ペリかん社、2012 年、3~20 頁、査読無
5. 木村純二、「恋の思想史 『源氏物語』の到達点」、『季刊日本思想史』第 80 号、ペリかん社、2012 年、21~50 頁、査読無
6. 吉田真樹、「六条御息所の生霊化の基底について」、『季刊日本思想史』第 80 号、ペリかん社、2012 年、51~69 頁、査読無
7. 栗原剛、「『源氏物語』における情死の可能性 近世町人文学からの視座」、『季刊日本思想史』第 80 号、ペリかん社、2012 年、70~90 頁、査読無
8. 木澤景、「極楽浄土のあらわれ 『源氏物語』と日本仏教における浄土の思想」、『季刊日本思想史』第 80 号、ペリかん社、2012 年、91~111 頁、査読無
9. 藤村安芸子、「女三の宮の出家」、『季刊日本思想史』第 80 号、ペリかん社、2012 年、112~127 頁、査読無
10. 藤村安芸子、「有徳と幸福の関係をめぐって 日本の倫理思想をふまえて」、『倫理学年報』日本倫理学会、第 61 号、26~34 頁、2012 年、査読有
11. 板東洋介、「悲泣する人間 賀茂真淵の人間観」、『倫理学年報』日本倫理学会、第 61 号、201~214 頁、2012 年、査読有

12. 板東洋介、「おそれとつづしみ 近世における「敬」説の需要と展開」、『日本思想史学』第 44 号、日本思想史学会、138~155 頁、2012 年、査読有

13. 岡田大助、「親鸞の求道の動機について 他者の救済への願い」、『工学院大学研究論叢』巻 49-2、1~12 頁、2012 年、査読無

14. 木村純二、「和辻哲郎における「恋愛」概念の葛藤について」、『東北哲学会年報』28 号、31~47 頁、2012 年、査読有

15. 木澤景、「日本思想における「観ること」の問題の一側面 『愚管抄』の撰家将軍の捉えかた」、『国土館哲学』第 16 号、国土館大学哲学会、97~120 頁、2012 年、査読無

16. 吉田真樹、「倫理学・日本倫理思想史の観点からみた「日本意識」」、『国際日本学』第 9 号、法政大学国際日本学研究所、69~78 頁、2012 年、査読無

[学会発表](計 2 件)

1. 木村純二、「和辻哲郎の日本意識 国民道徳論との関連から」、『法政大学国際日本学研究所シンポジウム「<日本>を意識する時」(招待講演)、2012 年 3 月 9 日、法政大学
2. 木村純二、「和辻哲郎における「恋愛」概念の葛藤について」、『東北哲学会第 61 回大会、2011 年 10 月 23 日、弘前大学

[図書](計 4 件)

1. 木村純二、「註」および「初出対応一覧」人名・書名索引、和辻哲郎『日本倫理思想史(四)』岩波文庫、331~392 頁、2012 年、査読無
2. 木村純二、「解説 3」および「註」、和辻哲郎『日本倫理思想史(三)』岩波文庫、383~426 頁、2011 年、査読無
3. 木村純二、「解説 2」および「註」、和辻哲郎『日本倫理思想史(二)』岩波文庫、497~526 頁、2011 年、査読無
4. 木村純二、「解説 1」および「註」、和辻哲郎『日本倫理思想史(一)』岩波文庫、335~372 頁、2011 年、査読無

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木村 純二 (KIMURA, Junji)
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：00345240

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

岡田(藤村) 安芸子 (OKADA, Akiko)
駿河台大学・現代文化学部・准教授
研究者番号：20323561

吉田 真樹 (YOSHIDA, Masaki)
静岡県立大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：20381733

栗原 剛 (KURIHARA, Go)
山口大学・人文学部・准教授
研究者番号：50422358